

林木育種センター東北育種場

岩手大学農学部の実習受入

東北育種場では岩手大学からの依頼により、平成29年5月18日に農学部共生環境課程森林科学コースの3年生15名の森林造成学実習の一環として、挿し木、接ぎ木の体験実習を行いました。

室内での座学と屋外での増殖体験の2部構成で行い、座学では林木育種事業及び林木ジーンバンク事業の概要、林木の増殖方法等について講義を行いました。

野外での増殖体験ではスギの穂を採取し、無性繁殖法である挿し木、接ぎ木を行いました。職員の説明を聞きながら、自ら採取した穂が挿し木や接ぎ木に適しているのか職員に尋ねる場面もありました。

刃物を使ってスギの穂を成形するのは思った以上に難しかったようで、刃物の持ち方や手の添え方、切り込む深さや手順等について何度も確認し、職員のアドバイスを受けながら丁寧に行い、怪我もなく実習を終えることができました。

実習生からは、苗畑作業で注意していること、必要な専門知識等様々な質問があり、林木育種に対する関心の深さが感じられました。

今後も各機関からの依頼に積極的に応じ、森林づくりの基礎となる林木育種の重要性の紹介等を通じて、地域の森林・林業の発展に貢献していきたいと考えています。



接ぎ木を行う実習生

東北北海道整備局

松くい虫被害対策の現地検討会を開催

東北北海道整備局では、岩手県が松くい虫被害の先端地域になっていることから、被害拡大防止対策の一環として、平成29年7月27日、奥州市において、現地検討会を開催しました。当日は、県内外から、地元林業関係者、関係市町村、国有林関係者等約90名の参加がありました。

午前中は、室内にて、森林総合研究所東北支所（盛岡市）から、マツノザイセンチュウによる松枯れのメカニズム、センチュウを媒介するマツノマダラカミキリの生態と効果的な被害防除策、被害木の利用促進などについて講義があり、参加者から多くの質問が出されるなど、活発な情報交換が行われました。

午後は、近年、松くい虫被害が見られはじめたアカマツの水源林造成事業地に移動。被害状況を確認しながら、速やかな伐倒駆除等の被害拡大の防止策、被害木の木質バイオマス発電用材料への利用、今後の森林管理方法等について、意見交換を行いました。

参加者からは、「松くい虫被害対策に理解を深めることができた」「今後の防除対策に利用していきたい」等の意見が聞かれ、幅広い分野について共通の認識を持つことができ、大変意義深いものとなりました。



被害木の伐倒駆除について意見交換